

表紙の写真に目を奪われた。私は宮古島で生まれ、小学校低学年からは那覇で育った。夏休みのたびに宮古の祖父母のもとに帰省し、遊び場は手つかずの美しい砂浜だった。強い日差しを麦わら帽子で除け、真っ青な海の照り返しは手で遮った。写真を見てノスタルジックな気分になった。

さて、今月号は田名新会長挨拶が秀逸である。琉大卒業生として初めて沖縄県医師会長に就任し、さらに全国でも一番若い。大いに期待したい。具体的に取り組む事業としてA～Eを掲げ、どれも重要な課題である。それぞれの担当理事が協力して解決していかななくてはならないと一担当理事として気持ちが引き締まった。

第227回沖縄県医師会臨時代議員会で本会役員、裁定委員、日医代議員・同予備代議員は選出された。写真を見て顔ぶれからも活気が伝わってくる。

インタビューコーナーはやっとと言うか、待ちに待った琉大細胞病理学教授の誕生である。川上 史先生には専門の婦人科病理に取り組むと同時に沖縄で多く病理医を育てて欲しいものである。インタビュアー同様大いに期待したい。

緑陰随筆はいつも楽しく読んでいる。日常診療のこぼれ話や趣味、人生のある時点での思い出話、ペットのことなどさまざまでそれぞれ個性が出ていて興味深い。

ところで今年の夏はとにかく暑い。1度上がるだけで耐え難く、那覇では36℃、観測史上最高と言う。日差しも強く、雨もよく降る。これも観測史上との報道が日本各地から聞こえる。「地球の沸騰化」は絵空事ではないようだ。産業革命より「1.5度上昇」の気候変動は本当に「存続に関わる脅威」かもしれない。平仄が合わないことはわかっているが“生命維持”のため我が家のクーラーはフル稼働である。

広報委員 久貝 忠男

